

多久市歴史文化基本構想

概要版

構想策定の目的

● 目的

国指定史跡および重要文化財「多久聖廟」をはじめとして、多久市内には指定文化財のほか、たくさんの未指定の文化財があります。これらは、わたしたちの祖先の営み、その土地ならではの特色をいまに伝える歴史的遺産です。

そして文化財には、それを中心とした祭りや行事など人々の活動や、文化財がおかれた土地の自然といった周辺環境があり、それらを一体にとらえ「歴史文化」と呼びます。

「多久らしさ」とも言える「歴史文化」の保護・継承と、多久のまちづくりに活かすことを目的に、多くの方々のご意見をうかがい多久市の文化財保護のマスタープランとして「歴史文化基本構想」を策定いたしました。

この構想は、地域に存在する文化財を、幅広くとらえ、文化財の周辺環境までふくめ総合的に保存・活用するための基本的な考えとします。

● 期待する効果

▶ 【文化財の保護・継承】

- ◎歴史文化の価値を見出し、郷土への理解、コミュニティ再生のきっかけになる。
- ◎文化の薫り高い空間を形成できる。
- ◎子どもたちの郷土学習に役立つ。

▶ 【観光振興】

- ◎多久の歴史文化をもとに観光プラン・地域を整備し、交流人口の増加に役立つ。
- ◎観光の活性は、経済をふくむ地域の活性化にもつながる。

▶ 【まちづくり】

- ◎構想を広くしめすことで、歴史文化の保護を優先した開発をみちびくことができる。
- ◎ほかの行政分野との連携を進め、総合的なまちづくりが可能になる。
- ◎「歴史まちづくり」や「日本遺産」に活用。

構想策定の背景

● 多久市の歴史文化の保護と、わがまちの将来に向けて

多久市内の各地域には、それぞれに特色ある歴史に育まれた多種多様な文化財が残されています。地域の文化財は、地域の歴史や文化の理解に欠くことができない財産であり、それは広く国民が共有するものです。

平成30年3月現在、市内46件が国・県・市の文化財に指定され、そのほか2件が国の登録文化財であり、それらは各町にまたがり分布します。

多久市では、これまで当市の歴史と文化の特色を示した重要性しめの高い文化財について、指定・登録を行ないその保護につとめてきました。一方、市内には有形・無形、また指定の有無を問わず、たくさんの「歴史文化」があり、その数は2,544件(平成20年刊行『多久市史第6巻 集落史編』集計)におよびます。指定・登録で保護されている文化財は、全体の約2%にすぎません。また、今回行なった基礎調査では2,544件のうち、現存が確認できたのは2,175件で、その差、369件については、ここ20年余りの間に途絶えたり、失われていたりまた所在不明など、過去に存在した状態にないことが分かりました。近年はそうした未指定の文化財や伝統的な価値などが見直され、「歴史文化を活かした地域づくり」が全国的に高まりつつあり、いま新たな取り組みをはじめめる時期と考えられます。

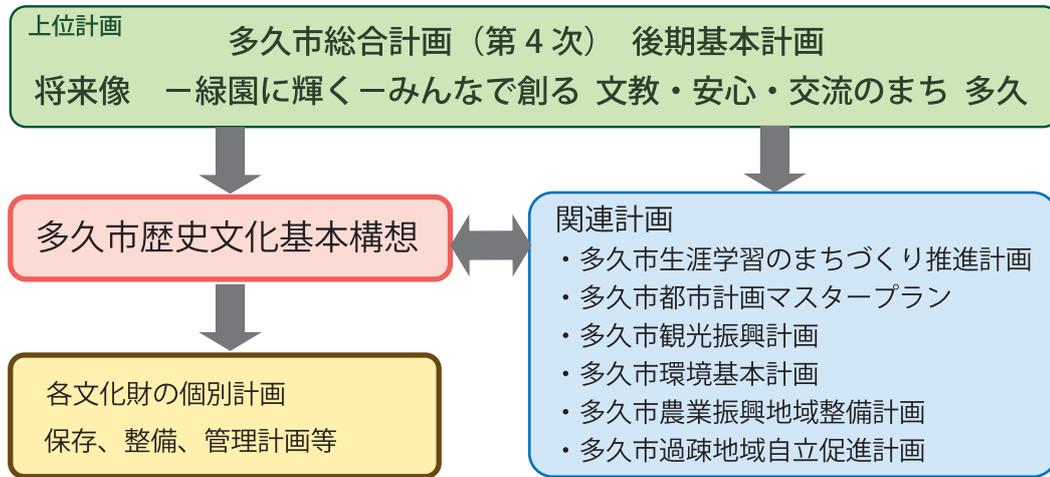


多久聖廟 (国重要文化財・史跡)

位置付け

「歴史文化基本構想」とは、指定・未指定にかかわらず地域に存在する文化財とその周辺環境を一体にとらえた「歴史文化」を、幅広い的確に把握し、他の行政計画とも連携しながら、総合的に保存・活用するための文化財保護行政を進めるうえで基本的な構想（考え）とするものです。

市の総合計画が目指す「将来像」を実現するための、文化財保護に関するマスタープランです。

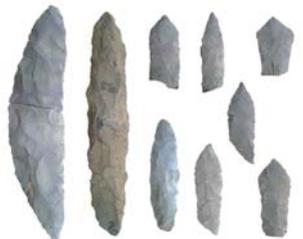


青銅造孔子像（市重要文化財）

多久市の歴史環境（概要）

●原始

鬼の鼻山一帯に産出する「安山岩（サヌカイト）」を石材として、主に旧石器～縄文時代（約 12,000 年以上前から 2,300 年前頃）に「石器」が加工生産され、西日本最大規模と言われる遺跡群が残されました。

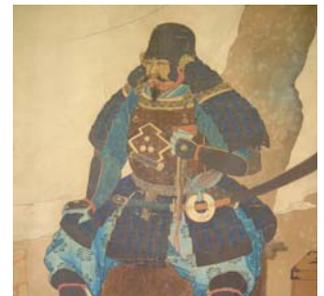


多久産安山岩の石器

●古代

『肥前風土記』などの記録に「高来（多久）郷」の記載があり、高来郷は大宰府を起点とする肥前路を「高来の駅」から南北に分ける分岐点として栄えたと推測されます。

後に整備された「唐津往還」、「伊万里往還」も多久のなかで分岐しました。



多久太郎宗直（延寿寺蔵）

●中世

鎌倉時代、津久井宗直（多久太郎宗直）の下向に始まる「前多久氏」の時代は、戦国期に龍造寺氏に追放されるまで 14 代つづきました。元亀元年（1570）、「梶峰城」に入城した龍造寺長信は、のちの「後多久氏」11 代の祖となりました。



多久聖廟秋祭（県重無形民俗）

●近世

後多久 4 代領主多久茂文は、儒学により多久領の人々に敬の心が育つよう希望し、郷校「東原庠舎」と儒学の祖孔子を祀る「多久聖廟」を創建しました。以来、多久は「丹邱（理想郷）」と称され、また多くの「先覚者（郷土出身の偉人）」を輩出しました。



川打家住宅（国重要文化財）

●近現代

明治以降、多久は良質な唐津炭田の中枢産炭地として「炭鉱」の開発と採炭が盛んに行なわれました。昭和 20 年代に大手会社が経営した炭鉱にともなう都市整備などで、現在の市街構造の基礎が形づくられ、最盛期は「炭都多久」とも呼ばれました。

地域の歴史文化の現況

(1) 祭り・行事

[主な祭りや行事イベント]

多久聖廟^{せきさい}祭菜（県重要無形民俗文化財）

高野神社春祭り 熱田社秋の例祭 砂原二十三夜祭 多久山笠

岸川盆綱引き 七郎神社祇園祭^{ふたご} 両子神社秋季大祭 もぐら打ち

孔子祭り 多久まつり 論語カルタ大会 孔子の里紅葉まつり

[主な郷土芸能]

ヤーホーハイ 太鼓^{ふりゅう}浮立^{かね} 鉦^{かね}浮立 面浮立 銭太鼓



面浮立



若宮八幡宮神殿（県重要文化財）



専称寺の大つつじ（市天然記念物）



肥前狛犬

(2) 神社・社

神社の代表に、天徳元年（957）に秋田宮内大輔^{とよさだ}豊定が創建した熊野権現社と、長徳元年（995）に豊定の子^{とよつぐ}豊次が創建した両子山王権現を合祀した両子神社（東多久町納所）があります。両子神社の肥前鳥居は市重要文化財です。高野神社（南多久町西ノ谷）と多久八幡神社（多久町東の原）は、多久に下向した多久宗直が創建し、八幡神社の若宮八幡宮神殿は県重要文化財、境内の三本杉は市天然記念物となっています。

(3) 寺院・堂

寺院の代表に、天平 4 年（732）に行基^{ぎょうき}により開山されたと伝えられる桐野山妙覚寺（南多久町桐野）があります。大同 2 年（807）行基の創建と伝える光明山^{せんしやう}専称寺（多久町東の原）は、はじめ南多久にあり、多久宗直が現在の地に再興しました。専称寺^{まさすけ すけもと}墓地には、少式政資、資元父子の墓（市重要文化財）があり、伝説^{さね}核割れ梅の樹があります。他に木造^{あみだ によらい}阿弥陀如来坐像（市重要文化財）、専称寺の大つつじが寺内にあります。

(4) 石造物

市内には人々の信仰を集める神仏像や石祠、祈念の碑や塔などが数多く存在し、その数は社寺とくらべて最も多く、今回確認できたもので約 1,300 体、正確には3,000体にも達するといわれます。過去、多久の領内^{とがわ}だった砥川地区（現小城市）は佐賀県内の石工の本場であり、砥川石工といわれる職工集団の関わりが想像されます。肥前鳥居^{こまいぬ}や肥前狛犬など、素朴ながら独特な特徴をもつ石造物群が残されています。

(5) 伝説

市内の旧唐津往還、伊万里往還の沿道地域を中心に、多くの言い伝え・伝説が残っています。伝説は人から人へ、道を通じて地域に広がることもあり、伝説の分布は自然にそれを表すのかも知れません。

古くは「松浦^{まゆら}佐用姫と長者原」、「百合^{ゆりわか}稚伝説と鬼神社」などがあり、江戸時代には多久家と関わる「金ヶ江^{かねがえ}三兵衛伝説」、「多久聖廟と龍」、「林^{りん}姫哀話^{あい}」が知られます。

(6) 炭鉱関連

江戸時代から石炭採掘の記録があり、明治になるとともに小規模^{たんこう}炭鉱経営、大正期には大手資本による三菱古賀山炭鉱、明治鉱業多久炭鉱などの大規模な炭鉱経営が行なわれました。戦後も佐賀県で最多の出炭量を誇っていましたが、社会の石油エネルギーへの転換^{けいしき}が契機となり、昭和 47 年に市内最後の炭鉱が閉山しました。市内に残る炭鉱関連の遺構は、炭鉱町の面影を伝えています。

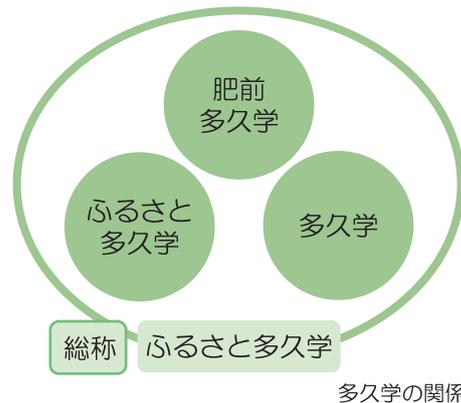


豎坑橋跡

新たな視点「ふるさと多久学」

市内で取り組まれている「多久学」の視点を通じて文化財の把握をすすめます。また多久学の考えは、多久聖廟を継承してきた歴史から、「人づくり」が重要なテーマの一つであり、多久の特色であることを示しています。

多久学の種類	主体となる担い手	活用対象の捉え方	歴史文化の広がり
肥前多久学	郷土資料館	多久聖廟と周辺の歴史 先覚者の業績・人物史	限定的
ふるさと多久学	中央公民館 各町公民館	郷土の歴史や自然	市域全体
多久学	義務教育学校	郷土の歴史、 人・もの・こと 論語（道徳教育）	市域全体



「多久市生涯学習のまちづくり推進計画」



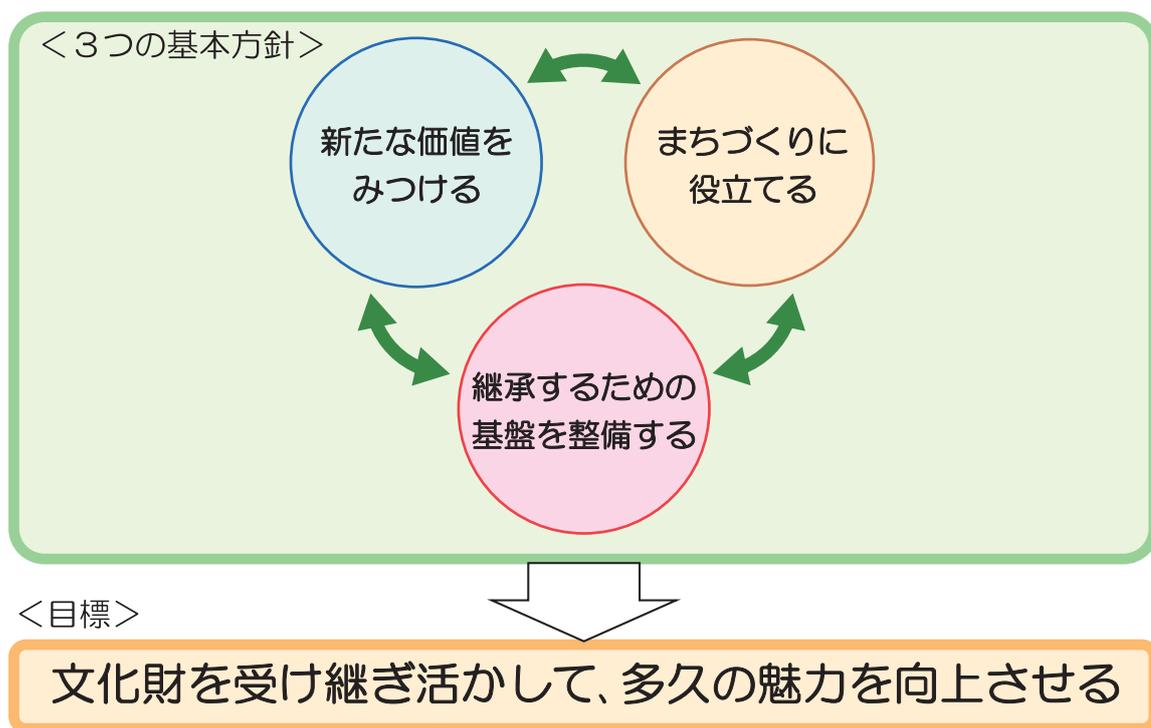
「多久学・論語教育」



百人一首式論語カルタ

歴史文化を活かしたまちづくりへ

多久市歴史文化基本構想では、以下の基本方針と目標を定めます。基本方針は互いに取り組みの方向性を関連させながらすすめる、相互の向上によって目標の達成を目指していきます。



基本方針 1

文化財を総合的に把握し、
新たな価値をみつける

●「ふるさと多久学」の深化

これまでの個別的な文化財把握が、「ふるさと多久学」の視点によって新たなテーマや、まとまりとして捉えられます。多くの市民に「ふるさと多久学」を広げ、ともに歴史文化への理解を深めていくよう推進します。

●文化財の掘り起しと未指定文化財の計画的な指定・登録

新たな価値を見出すために、広域的な情報収集や関係団体等との連携を図り、地域との意識の共有化を進めます。

●文化財と周辺環境の一体的把握

文化財とその周辺環境の関連性をきめ細かに調査把握し、文化財の価値を高めます。

●文化財の修理・補修

所有者や市民からの情報提供などをもとに修理・補修の専門技術者との連携を図り、文化財の状態を調査して必要な修理などの予算措置を図ります。

基本方針 2

文化財を守り、
継承するための基盤を
整備する

●担い手の役割

文化財を守り継承する担い手として、市民・行政・学校・活動団体に協力を求め、それぞれの立場や役割に応じた活動の拡充を図ります。

●協働の場づくり

担い手による相互の交流・連携機会を設け、活動上の課題などを協議し、また協力依頼や支援により活動に反映できる場をつくります。

●歴史文化の担い手情報の整備

文化財に関わる担い手の活動内容や成果など、情報を把握しデータベース化を図ります。活動の前例として他の活動団体への助言等が可能となります。

●担い手の育成と活動資金

行政は、市民への啓発、団体への支援、学校への協力を通じて担い手育成の取り組みを進めます。また活動団体等には次世代を担う人材の育成や、活動資金確保の取り組みを継続して頂きます。

●文化財活用諸施設と環境の整備

現在、多久聖廟と周辺区域や、西溪公園と郷土資料館、くど造り民家の周辺と隣接のふるさと情報館等が整備されています。文化財とまちづくりを連動させて魅力的な地域空間の創出と、充実した観光施設等整備の推進を図ります。

基本方針 3

文化財を効果的に活用して、
まちづくりに役立てる

●歴史文化を活用した学校教育・生涯学習の拡充

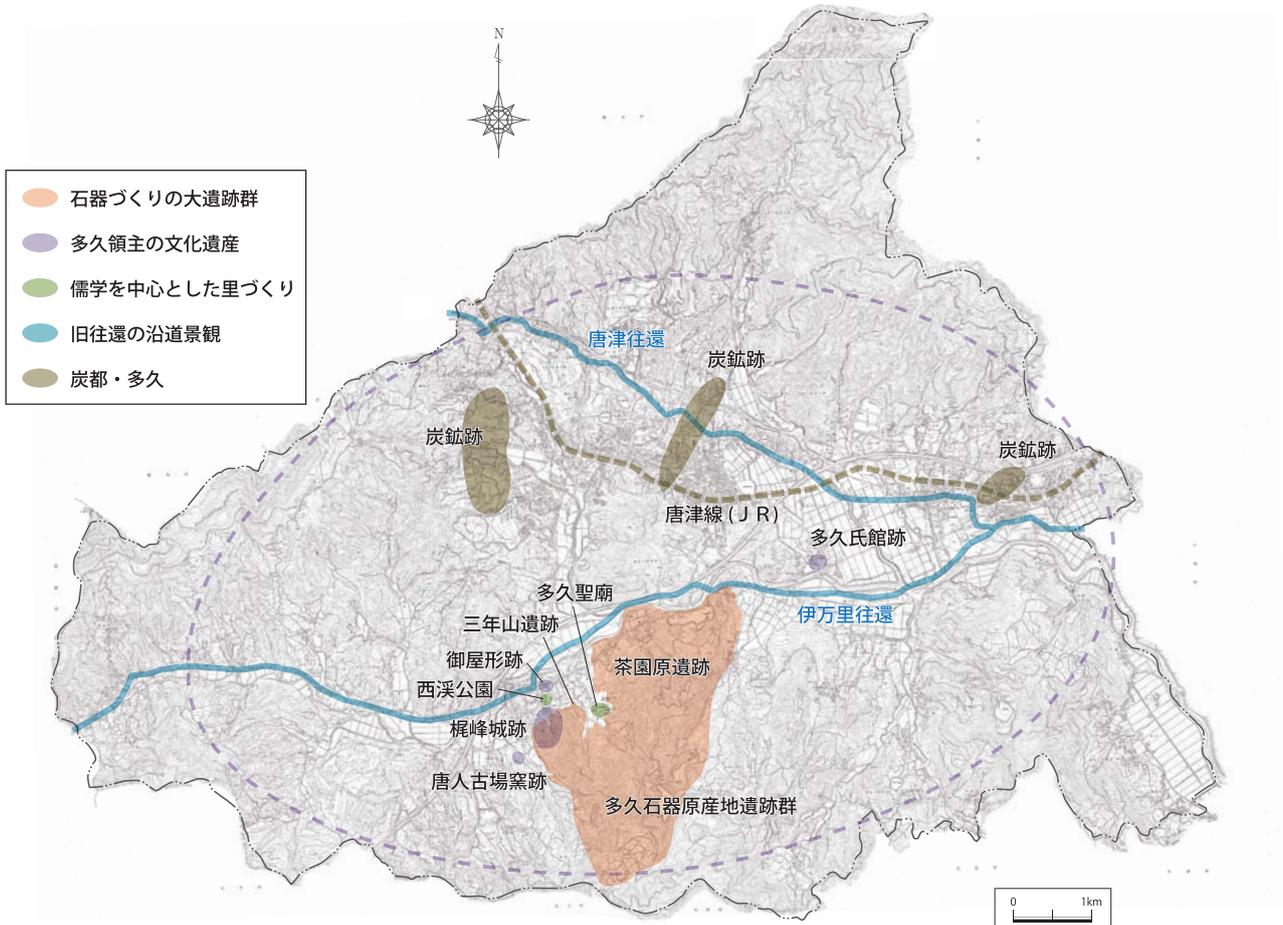
子どもたちが市内の歴史文化に興味を持ち、文化財サポーターや担い手になってもらい、また魅力ある人間形成のために歴史文化を学ぶ教育プログラムの拡充を図ります。そのほか、文化財の見守り・清掃・語りのボランティア活動や、高齢者の生きがい対策にも活用できる企画、また親子参加イベントを推進します。

●公開と情報発信

公開方法などを検討し、多くの文化財を公開することにより、多久の魅力向上を図り教育・観光の柱としていきます。多様な媒体を通じて、歴史文化を継承する地域、担い手の活動、そのほか総合的な情報発信に取り組みます。

関連文化財群

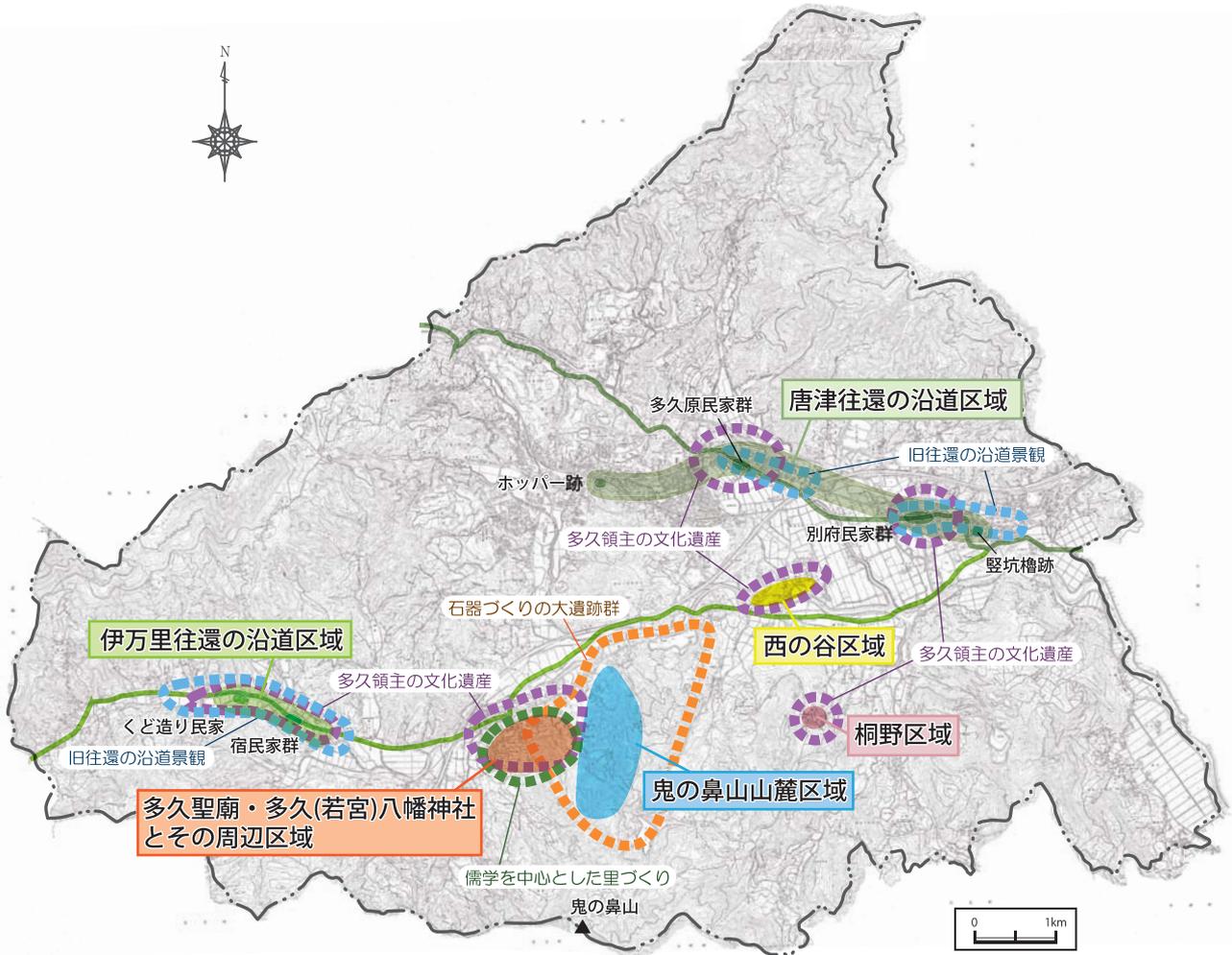
地域に存在する様々な文化財を、歴史や関連性に基づき洗い出し、とくに地域の歴史文化の特色を物語るまとまりを抽出します。本構想では以下の5つのテーマを設定し、テーマに適合する文化財のまとまりを関連文化財群とします。それを総合的に保存・活用することにより、個々の文化財の価値をさらに高め、魅力あるまちづくりへの貢献が期待できます。



テーマ名	ストーリー	構成する主な文化財	所在地など
石器づくりの大遺跡群 旧石器時代	安山岩を加工した大型尖頭器の一大生産地である旧石器時代の遺跡群が発見された。	遺跡 出土品 石材	多久町下鶴 東の原 中野 など
多久領主の文化遺産 鎌倉時代～明治初期	多久氏(前多久、後多久)は合わせて680年間、この地を統治し領民に多大な影響を与え、その政治・文化施策による多くの文化遺産が存在している。	神社 寺院 城郭跡 武家屋敷 館と城下 往還 文書資料 石造物 郷土芸能 祭り 伝説	多久町東の原・西の原 南多久町西ノ谷・中小路・ 庄・桐野 東多久町別府 北多久町多久原 など
儒学を中心とした 里づくり 江戸時代中期～現代	後多久4代領主茂文による儒学に基づく文教の里づくり。孔子の教えは、現在にも継承されており、中核をなす聖廟は多久市の象徴となる。	廟 小中学校 祭り 伝説 文書等資料	多久町東の原 多久町西の原 など
旧往還の沿道景観 主に江戸時代～現代	古代の官道から発展し、江戸時代には宿・駅が設けられ整備された唐津往還、伊万里往還の沿道には、伝統的な民家などによる独特の景観をもつ。	往還 農家 商家 堂 石造物 農地 番所跡 伝説	東多久町別府 北多久町多久原 西多久町宿・板屋下 など
炭都・多久 江戸時代後期～昭和40年代	江戸時代後期から採掘された多久の石炭。昭和時代の最盛期、炭都・多久と呼ばれ一大供給地となったが、昭和47年に最後の炭鉱が閉山した。石炭産業は、近代多久に大きな貢献を果たした。	炭鉱関連施設 寺院 まちづくり(道路・鉄道 ・炭鉱住宅など) 地名	東多久町古賀 北多久町砂原・中山 など

歴史文化保存活用区域のゾーニング

関連文化財群の主要な構成要素の所在地をもとに、文化財が集積した地区や、関連する文化財をつなぐ範囲など、テーマを語るうえで核となる地域を設定します。本構想では、以下の6区域を選びだし、これらの区域を中心に、未指定文化財をふくむ歴史文化を活かしたまちづくりなどの環境整備を検討していきます。



テーマ 区域	石器づくりの 大遺跡落群	多久領主の文化遺産	儒学を中心とした 里づくり	旧往還の沿道景観	炭都・多久
鬼の鼻山 山麓区域	茶園原遺跡 多久石器原産地 遺跡群				
桐野区域		妙覚寺			
西ノ谷区域		前多久氏館跡 高野神社 延寿寺			
唐津往還の 沿道区域		唐津往還とその宿・駅		商家(木下家住宅・ 別府民家群) 商家(多久原民家群)	竪坑櫓跡 ホッパー跡 坑口跡
伊万里往還 の沿道区域		伊万里往還		くど造り民家(川打 家・森家、他) 幡船の里	
多久聖廟・ 多久(若宮)八 幡神社とそ の周辺区域	三年山遺跡	梶峰城跡 御屋形跡 多久八幡神社 武家屋敷 多久神社 等覚寺 専称寺 西の原大明神 肥前陶器窯跡 (唐人古場窯跡) 多久市郷土資料館(立 葵蒔絵螺鈿筆・多久家 資料及び後藤家文書)	多久聖廟及び関係文 化財 聖廟周辺 西溪公園 東原庫舎 (宿泊研修施設) 多久市立東原庫舎西 溪校 多久市郷土資料館 (石製先家君自安先 生墓誌)		

歴史文化保存活用区域の保存活用の方向性

6つの区域に対して、保存活用の5つの方向性をもとに活用を進め、また全体の調和を図ります。

区域	方向性	環境の質の向上	施設等の整備	情報発信・案内・交通等のサービスの充実	まちづくりとの連動	人づくり
鬼の鼻山 山麓区域		<ul style="list-style-type: none"> 各遺跡の保存 周辺環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 展望台、休憩施設等の設置 遊歩道の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 見学と案内サービスの充実を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 山林の保全 	<ul style="list-style-type: none"> 案内ボランティアの育成
桐野区域		<ul style="list-style-type: none"> 各文化財と周辺環境の保存 	<ul style="list-style-type: none"> 休憩施設等の設置 遊歩道の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 見学公開と案内サービスの充実を目指す お宝絵図（仮称）への記載 	<ul style="list-style-type: none"> 山林、里山の保全 集落景観の維持と空き家対策 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動や地域間交流による人材育成 案内ボランティアの育成
西ノ谷区域		<ul style="list-style-type: none"> 各文化財と里山などの周辺環境の保存 	<ul style="list-style-type: none"> 各文化財と里山をめぐる回遊ルートの設定と整備 	<ul style="list-style-type: none"> 見学公開と案内サービスの充実を目指す お宝絵図への記載 	<ul style="list-style-type: none"> 里山の維持管理活動による地域づくり 集落景観の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動や地域間交流による人材育成 案内ボランティアの育成
唐津往還の 沿道区域 (東多久町古賀から北多久町砂原まで)		<ul style="list-style-type: none"> 民家群、竪坑櫓、ホッパーの保存と維持・管理 周囲沿道景観の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 回遊ルートの設定 民家を観光拠点として整備 新たな視点場の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 見学公開と案内サービスの充実を目指す お宝絵図への記載 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家対策など 沿道景観の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動や地域間交流による人材育成 案内ボランティアの育成
伊万里往還の 沿道区域 (西多久町宿・板屋下)		<ul style="list-style-type: none"> 民家群の保存と維持・管理 周囲の沿道景観形成 	<ul style="list-style-type: none"> 幡船の里、宝満山公園など整備済 市民による農地・農園の利用 	<ul style="list-style-type: none"> くど造り民家は公開 幡船の里は情報館として活用されている お宝絵図への記載 	<ul style="list-style-type: none"> グリーンツーリズムの拠点の形成を図る 空き家対策など 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動や地域間交流による人材育成 案内ボランティアの育成
多久聖廟・多久(若宮)八幡神社とその周辺区域		<ul style="list-style-type: none"> 聖廟を含む整備された周辺区域の維持・管理 多久(若宮)八幡神社とその周辺の景観形成 四季を通じて再訪したい魅力ある環境へ 	<ul style="list-style-type: none"> 梶峰城跡見学の遊歩道等の整備 バリアフリーを目指す整備 新日本歩く道紀行100選認定ウォーキングコースの整備 	<ul style="list-style-type: none"> さらなる公開の推進 郷土資料館、東原庁舎からのさらなる情報発信 案内板等の統一 まち歩きマップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地形成の適切な規制誘導 駐車場の適切な設置 多久市の中心的観光拠点としての魅力の向上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動や地域間交流による人材育成 案内ボランティアの育成

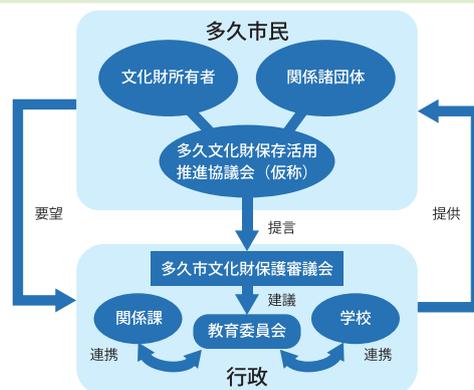
保存管理の考え方

保存活用（管理）計画は、実際に文化財を総合的に保存・活用するための詳細な計画であり、本構想とは別に策定します。指定文化財のなかには個別の計画が必要な場合もあります。関連文化財群、また歴史文化保存活用区域はテーマを活かすことを基本とし、「環境の質の向上」「施設等の整備」「情報発信・案内・交通等のサービスの充実」「まちづくりとの連動」「人づくり」の保存活用の5つの方向性をもとに方策を検討します。

体制整備の方針

文化財の保存・活用の効率的な推進には、関連活動団体との調整を行いとりまとめる組織をつくります。

諸団体の活動を把握、人材育成の支援、市民からの窓口、行政との連携、新しい団体づくりの支援などが考えられ、そのための情報の収集と効果的な発信を行い、諸団体の連携を推進していくことが望めます。



多久市歴史文化基本構想【概要版】

平成 30 年 3 月 多久市

（問い合わせ）多久市教育委員会 教育振興課
TEL 0952-75-8022



平成 29 年度文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)